2024.02.17　**「幕張ベイ・グリスロプラス住民フォーラム」**

グリスロプラスの“そもそも”

2022 年 11 月のグリスロ実証調査を振り返り、地域のコミュニケーション活性化への評価は高く、グリスロを必要とする暮らしでの地域課題は明らかです。
ただ実証調査を繰り返すだけでは、マンネリとなり、新規性の魅力も薄れます。
次のステージへ進むには、住民が想いを実現したいとするこだわりが**テコ**となると考え、住民のグリスロプラス交流会・分科会ワークショップを開催してきました。

私たちのポリシーは、コミュニティプラスの発想を基底にしつつ、「グリスロを考える会」から「グリスロプラス」へと変遷してきました。
＜グリスロありき＞のみでは、住民の持続の力は生まれない。
されど、グリスロがあって地域の課題に向き合える。
グリスロプラスは、多世代のコミュニティが創生するさまざまな価値をつなぎ、住民と産官学による地域事業モデルの可能性へチャレンジします。

毎月のワークショップでの「ルート創造」により、地域と人々との関係性を顕在化させ、コミュニティプラスのつながりが、グリスロに価値をプラスしてゆきます。
コミュニティとコミュニティ、人と人がつなぐ人間中心の視点は、Well-being の発想力で、グリスロの価値をいきいきと蘇生させます。
時代の趨勢と共に、この価値実現への願いは地域に広がり、２月１７日のグリスロプラス住民フォーラムが、そのキックオフになると予想しています。

9 月 15 日の日本学術会議からの提言の「・・・次世代モビリティと社会デザイン」にフレイル予防とウェルビーイングがあります。
私たちが、2023 年度に特別委員会 「幕張ベイ・グリスロプラス」の活動方針を実践してきたことは、そのフレームもシナリオにおいても間違っていなかったと思います。

始まったばかりのグリスロプラス活動ですが、「ルート創造」と共に日大生産工学部・創生デザイン学科の学生も参加し、また、打瀬中学校 EX 講座のウェルビーイング講座が、NTT 社会情報研究所 Well-Being の協力により実現し、地域とのつながりに弾みがつき始めました。
次なる課題は、ボランティアのアウトリーチの拡がり、広域地域での企業との連携、行政との協働テーマ・・事業モデルについて、アイデアを練ってゆきます。
以上、簡単ですが、グリスロプラスの**“そもそも”**でした。

幕張ベイ・グリスロプラス　山木則男